

陸漁業は全く成立たない。

ただ清水が多いところから、鱒養殖が、あちこちで試みられ、現在真渡で成功している例がある。当村の手代木卓偉が昭和二十五年に最初試みたそうであるが、この見通しがつくと、同二十七年、村人八人が共同して村東



野良のこやしだめ（二日町）

の清水をひいて、大規模に

水漕を数個（

現在は大小計一〇個）つくって始めた。湧水であるため、一年の水温があまり変化しない。大体一六〜一八度くらいを保てるのが必至の条件となっているが、時に真夏は二二〜二三度にもものぼることがあるので警戒している。現在は一五万匹ほど養殖されているそうであるが、東山温泉・会津若松の市場を叩えているので、湧水利用の新たな産業となりはじめている。

4、陶磁器業 これは本郷町が瀬戸町といわれるほどの特産地であるため、敷地の関係と、水力と運送などの立地条件から、昭和八年、本郷町でガイシの生産を営業していた山口伊勢次が、東京の上原嘉一郎と相互出資して始められたものである。もとはガイシ類は東京の上原



こえためば（肥料貯蓄場）、ふりおけいもあらい棒、肥いひしゃくなどがみえる（42.1.7 西麻生にて）